

[成果情報名] エンバク中生品種「ニューオールマイティ」の品種特性

[要 約] 「ニューオールマイティ」は、乾物収量に優れている。

[部 署] 山形県農業総合研究センター畜産試験場・草地環境部

[連絡先] TEL 0233-23-8817

[成果区分] 普

[キーワード] 牧草、エンバク、収量性

[背景・ねらい]

エンバクは他のムギ類に比べ越冬性が低いが、環境適応性に優れ、ムギ類の中では耐湿性が高い草種である。また、播種から約2か月で収穫できることから、二毛作の前作物としての利用も期待できる。エンバク中生品種の本県における適応性を調査・検討し有望品種を選定する。

[成果の内容・特徴]

エンバク中生品種「ニューオールマイティ」の生育特性は次のとおりである。

- 1 乾物収量は、3年間平均で「前進（中生標準品種・県有望品種）」より10%多収である（表1）。
- 2 6月中旬には出穂期となり収穫可能となることから、早晚性を考慮して後作物と組み合わせることにより、二毛作の前作物として利用可能である（表2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 栽培方法は、山形県飼料作物栽培指針に準ずる。
- 2 試験における栽培概要は以下のとおり。

播種日および収穫日

	播種日	収穫日
平成29年	4月28日	6月26日
平成30年	4月23日	6月19日
平成31年	4月23日	6月21日

播種量：条播（条間 30 cm）800g/a

施肥量：堆肥 200kg/a、粒状苦土石灰 20 kg/a、基肥として N、P₂O₅、K₂O を各 0.8 kg/a

[具体的なデータ]

表1 収量調査結果(各年および3年平均)

品種		草 丈	生草収量		乾 物 率	乾物収量	
		(cm)	(kg/10a)	標準比	(%)	(kg/10a)	標準比
ニューオールマイティ	29年	119.3	5,321	98	13.1	698.2	114
	30年	92.1	3,011	95	18.6	559.0	114
	元年	98.0 B	3,363	87	17.5	588.4	102
	3年平均	103.1	3,898	94	15.8	615.2	110
前進(標準)	29年	126.7	5,439	-	11.2	611.1	-
	30年	95.1	3,172	-	15.4	488.9	-
	元年	109.1 A	3,845	-	15.0	574.9	-
	3年平均	110.3	4,152	-	13.4	558.3	-

※年度ごとに異符号間に有意差あり(p<0.01)

表2 生育調査結果(3年平均)

調査項目	発芽の良否	初期生育	出穂期
評価単位	1~9	1~9	
ニューオールマイティ	8.8	6.9	6月15日
前進(標準)	8.9	7.6	6月23日

※ 極不良を1、極良を9とする評点法

※ いずれの年も倒伏の発生は無かった。

[その他]

研究課題名：飼料作物優良品種選定調査

予算区分：県単

研究期間：令和元年度（平成28年度～令和元年度）

研究担当者：樋田 剛、秋葉 浩一、菅 和寛

発表論文等：なし